

必ず読んでください

ヒブ Hib（インフルエンザ菌b型）予防接種についての説明書

1. 病気について

インフルエンザ菌、特にb型は、中耳炎、副鼻腔炎、気管支炎などの表在性感染症の他、髄膜炎、敗血症、肺炎などの重篤な感染症を起こす、病原細菌です。ヒブによる髄膜炎は、H22年以前は年間約400人が発症し、約11%が予後不良と推定されていましたが、現在はワクチンが普及し、重篤な感染症はほとんどみられなくなりました。なお、Hibはインフルエンザの原因である「インフルエンザウイルス」とは全く別のものです。

2. ワクチンについて

Hibワクチンは4回の接種を受けた人のほぼ100%に抗体（免疫）ができ、Hib感染症に対する高い予防効果が認められています。

副反応として最も多くみられるのは接種部位の発赤や腫脹、発熱ですが、これらは一時的なもので数日で消失します。重い副反応として、非常にまれに、ショック・アナフィラキシー様症状、けいれん、血小板減少性紫斑病などが報告されています。

3. 接種回数と間隔

接種開始年齢	接種回数と間隔
生後2か月～7か月未満 (標準的なスケジュール)	初回：4～8週間間隔で3回 ただし、医師が認めた場合は3週間間隔で可 追加：初回接種3回終了後、7月から13月の間
生後7か月～12か月未満	初回：4～8週間間隔で2回 ただし、医師が認めた場合は3週間間隔で可 追加：初回接種2回終了後、7月から13月の間
生後1歳～5歳未満	1回

4. 以下のことに注意してください

- ① 予防接種の必要性や副反応についてよく理解しましょう。分からないことは接種を受ける前に質問しましょう。
- ② 接種に連れていく予定にしているも、体調が悪と思ったら、やめましょう。
- ③ 子どもの日頃の状態を知っている保護者の方が連れていきましょう。また、卵などの食品や、薬などにアレルギーがないか日頃からよく注意をして見ておきましょう。
- ④ 予診票はお医者さんへの大切な情報です。責任を持って記入するようにしましょう。
- ⑤ 母子健康手帳は必ず持っていきましょう。母子健康手帳がないと接種できません。
- ⑥ 接種後は、30分間は接種場所で子どもさんの全身状態を観察しましょう。

5. ワクチンについて予防接種による健康被害救済制度について

定期接種によって引き起こされた副反応により、生活に支障が出るような障がいを残すなどの健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく給付を受けることができます。

給付申請の必要が生じた場合には、大田市健康増進課へご連絡ください。